

# 乙御前御消息

御書新版 1689頁 13行目〜16行目  
御書全集 1220頁 9行目〜12行目

されば、妙楽大師のたまわく「必ず心の固  
きに仮つて、神の守り則ち強し」等云々。人  
の心かたければ、神のまぼり必ずつよしとこ  
そ候え。

これは御ために申すぞ。古の御心ざし申す  
ばかりなし。それよりも今一重強盛に御志あ  
るべし。その時はいよいよ十羅刹女の御まぼ  
りもつよかるべしとおぼすべし。

## 語句

「必ず心の固きに仮つて……」  
妙楽大師の『止観輔行伝弘決』巻8の文。

## 通解

（法華経を信ずる者は諸天善神に守られ  
る）それゆえ、妙楽大師は「心が堅固で  
あれば、必ず神の守りも強いのである」  
と言われている。その人の信心が固けれ  
ば、諸天善神の守りは必ず強い、という  
ことです。

これは、あなたのために申し上げるの  
である。これまでの、あなたの信心の深  
さは、言い表すことができない。しかし、  
それよりもなお一層の強盛な信心に励ん  
でいきなさい。その時は、ますます十羅  
刹女の守護も強くなると思いなさい。

## 十羅刹女

法華経陀羅尼品第26で、法華経を受持する者を守ること  
を誓った10人の女性の羅刹。羅刹はサンスクリットのラー  
クシヤサの音写で、人の血肉を食べる悪鬼とされるが、  
毘沙門天王の配下として北方を守護するともいわれる。